

菅 佳夫

***小信小史 (LA PETITE HISTOIRE DE « FRANCE TSUSHIN »)**

皆様の温かいご声援を受けながら、小信も 100 号を発信するに至りましたこと誠に嬉しく、厚く御礼を申し上げます。この機会に今日までの経緯を改めてご紹介致したいと存じます。思い起こせば 2002 年 4 月のこと、勤務先は世界各地に営業所がある会社で、各地の現況の一部でも知ることが、少しでも相互理解に役立つのなら、とのアイデアで 担当を命じられ « CTE NEWS - Information from Paris » と題した A4 紙 2 頁にまとめたニュースを日本の本社へ発信、本社はこれを必要と思われる国内・国外の営業所宛に配信したのが始まりです。今手元にある 2003 年 7 月 11 日付第 31 号を見ますと、7 月 14 日の“パリ祭”の案内、“アビニヨンの演劇祭ストの為開催中止”等を伝えています。

2004 年 5 月 3 日付の第 49 号からは « JPIE NEWS » と名称を変更、エゴン・シーレ、ドガ、マチス、ピカソ等の自画像だけの“「私」20 世紀自画像展”などを紹介、“国境なきレポーター 20 人の 20 年に亘る写真展”等を伝える 2005 年 7 月 19 日発信の第 78 号で終わりました。何故に終わったかと云えば、私の所属が変り、残念なことに後継者が見つからなかったからなのですが、私も 3 年間担当したものですから、このままにしてしまうことが大変心残りでした。そこで思いついたのが、友人、知人の皆様へのご無沙汰つなぎに時候の挨拶を兼ねて、興味あるニュースを、出来れば定期的に発信しよう、という事でした。そのスタイルは変えずそのままに 2005 年 9 月 26 日、全くの私信として « KANEWS » 1 号を“古代パリジャンの食生活展”などをご紹介しながら 150 人余りの方々に宛てお送りしました。この « KANEWS » の名前では 2008 年 2 月 19 日付で“フランスの学校給食”や“ルルドの聖母マリア出現 150 周年を祝う”などを伝えた 47 号迄で、その間、フランス企業 H 社の日本支社の社内報に「エール・ドゥ・パリ」の名で転用されて、好評を得たこともありました。フランス語の授業で参考にお使い下さっている、という嬉しいお話も伺い、大いに励みとなりました。

2008 年 3 月 13 日、“ボージョレ不法加糖疑惑”、“ルイズ・ブルジョワ展”などを記事に「フランス通信」と名前を変えて第 1 号を発信、以来今日迄月に 1 度、2 度ですが、当初の 2 倍以上 350 余りの宛先を幾つかのグループに分けて配信、お蔭様で 100 号を発信する次第となりました。小信が皆様の「絆」となります様、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

パリの動物園*(LE PARC ZOOLOGIQUE DE PARIS)**

2008 年に閉鎖されてよりパリには動物園が無い状態でしたが、それ迄とは全く異なった企画で工事が進められ、この 4 月 12 日「パリの動物園」(通称「ヴァンセン又の動物園」)が“再び”と云うよりも“新たに”開園しました。(le Zoo de





Vincennes rouvre ses portes) 歴史的には 1882 年開園の上野動物園に遅れること 50 年、1931 年のパリ植民地博覧会 (l' Exposition coloniale) の機会にパリのポルト・ドレ (Porte Dorée) に小さな動物園を設けて、当時の植民地から珍しい動物を集めて紹介したのが始まり、6 ヶ月に 500 万人もの見物客が訪れたと云います。正式には 1934 年 6 月 2 日に開園 (le zoo est inauguré le 2 juin 1934)、今も残る高さ 65m のコンクリートで出来た猿の岩山がシンボルとなりました。(Haut de 65 mètres, le grand rocher qui abritait les singes est l' emblème du lieu) その後も動物園の人気は衰える事無く続きましたが、1980 年頃には老化の為各所に傷みが目立ち、危険ともなりましたので、2008 年に惜しまれつつ閉鎖され、動物達は各地の動物園や遊園地などに移されました。

閉鎖後は殆ど全てを取り壊して、動物園の概念を変え、檻を無くして動物達本来の棲息地に近い環境を作り、出来るだけ自然に生かす、、、など、新たなコンセプトを以って工事が進められました。園内を「ヨーロッパ」「アマゾン・ギアナ」「マダガスカル」「パタゴニア」「サヘル・スーダン」の 5 つの棲息地帯に分け (le parc est divisé en cinq

biozones : Europe, Amazone-Guyane, Madagascar, Patagonie, Sahel-Soudan) 此処に約 180 種類 1000 匹余りの動物達を本来の棲息地帯に従って放ち (les 180 espèces 1000 individus sont réparties en 5 biozones selon leur origine géographique) 更に熱帯の暑く湿った空気の大きな温室には熱帯植物に爬虫類や猿など (une serre restitues l' atmosphère chaude et moite des forêts tropicales pour les reptiles et les petits primates) 、大きな鳥屋にはフラミンゴも自由に飛びまわる (une volière immense est librement habitée par des flamants roses) といった様子です。レタスを 1 日に 50 キロも食べるという海牛 (マナティー) (le lamantin)、オオヤマネコ (le lynx)、獰猛なクズリ (屈狸) (le glouton) など珍種の新顔も居ますが、動物園には欠かせない人気者の象 (l' éléphant)、熊 (l' ours)、河馬 (l' hippopotame)、虎 (le tigre) などの姿が何故か見えないのは淋しい気がします。12 日開園の日には、早朝から待ちに待ったパリジャン達が行列を作りましたが、動物達はやや遠く、草の茂みや、岩や木の向こうに隠れるようにしており、自然な状態はよいとして、もっと近くで動物を見たかった、と云う期待外れな意見が多かったようです。

LE PARC ZOOLOGIQUE DE PARIS

入り口は Avenue Daumesnil と Route de Ceinture du Lac Daumesnil が交わる所、
メトロ Porte Dorée 下車、
詳細は www.parczoologiqueparis.fr

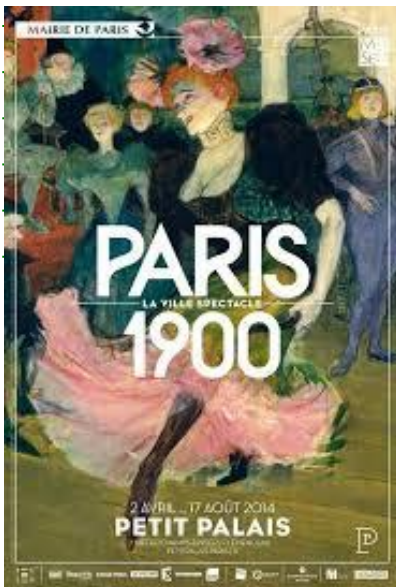


*「パリ 1900 “スペクタクルな町”」展 (Expo. « PARIS 1900 - LA VILLE SPECTACLE »)



万国博覧会の機会に 20 世紀を華々しく開幕した 1900 年のパリを当時の最も優雅な建物“プチ・パレ”にロートレックやロダンなどの作品や、写真、イラスト、ポスター、衣裳、装身具、アールヌーヴォーの家具、ガレ、ラリック等の調度品等 600 点余りを展示して振り返っています。

しかし、パリにとっては何と云ってもメトロの開通、その意味で今回の展示にはパリ交通営団 (RATP) が共催しているといってもよく、今も残るエクトール・ギマール (Hector Guimard (1867-1942)) の手になるアールヌーヴォーの駅の装飾や車輛等々の開通当時の資料を展示しているだ



けでなく、メトロの設計者ビヤンヴニユ (Fulgence Bienvenüe (1852-1936)) の名が残るモンパルナス駅地下の乗り換え通路の壁 135m に巨り開通時の模様をフレスコに描いて紹介しています。

« PARIS 1900 - LA VILLE SPECTACLE » 展

2014 年 8 月 17 日迄

プチ・パレ (Petit Palais) にて

住所 : Avenue Winston Churchill, 75008 Paris

月曜・祭日を除く毎日 10 時 - 18 時

入場料 11 ユーロ (13 才未満無料)



2014 年 4 月 14 日 Saint Maxime 日の出 07 時 02・日の入 20 時 40、 気温 [朝夕・日中] パリ 7°C・17°C
晴天、ニース 13°C・18°C 晴天、ストラスブール 6°C・16°C 晴天 *パリ地区の学校は本日から 27 日迄
春休み。4 月 20 日は復活祭 (les Pâques) で翌 21 日が祭日。盛春、マロニエもリラも咲きました。